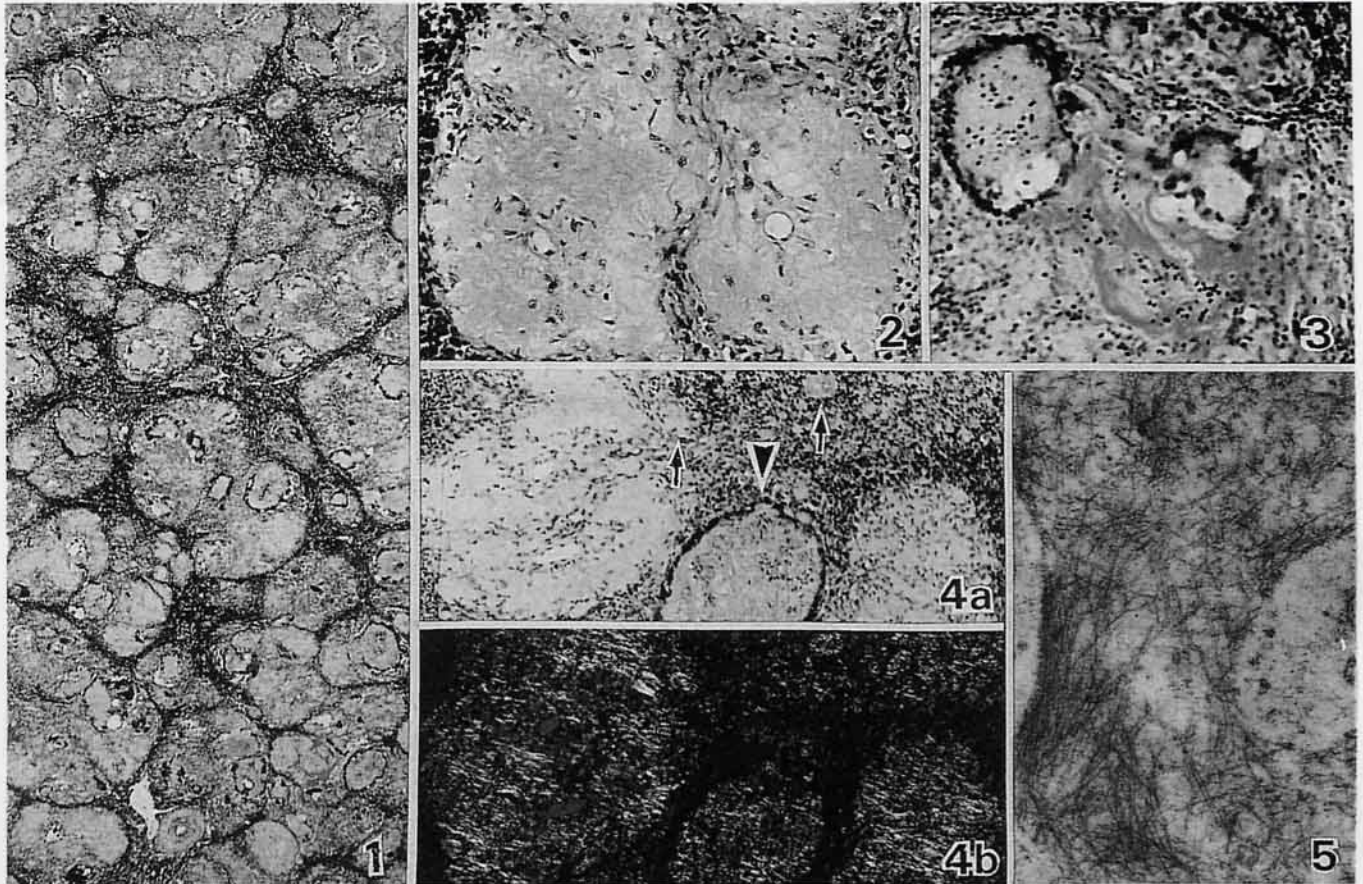


# 鶏の脾臓

(財)日本生物科学研究所出題 第37回獣医病理学研修会標本No.684



動物：採卵鶏，38週齢。

臨床的事項：症例は産卵低下(81%，ピーク時は92%)と下痢がみられた鶏群の1羽でMD, IB, ND, IBD, ILT, FP, MG, AEなどに対するワクチンが接種されていた。

剖検所見：脾臓は高度（正常の3～4倍）に腫大し，断面にはサゴ様の灰白色小顆粒巣が密在していた。卵管膨大部に手拳大の陳旧凝固卵黄が貯留し，当部以下にも拇指頭大凝固卵黄がソーセージ様に連続，卵管子宮部は鶏卵大に拡張し黄色透明液を容れていた。その他の諸臓器には著変は認められなかった。

組織所見：脾臓鞘動脈を中心にした領域に，アミロイド様の物質が高度に沈着し，沈着部位はしばしば壊死に陥って異物巨細胞反応を伴っていた。リンパ組織ならびに赤脾髄は高度に萎縮して網目状に残存するのみであった（図1）。鞘動脈は管腔が拡張し，細網細胞間隙には異常物質が高度に沈着して著しく腫大していた（図2）。初期の壊死巣では偽好酸球浸潤も見られた。病巣内外では，出血や血液液性成分の滲出が多発し，本部位における重篤な循環障害が示唆された（図3）。沈着部位はコンゴ赤に染色され（過マンガン酸カリウム前処理感受性），壊死領域（図4a矢頭）や小動脈壁（同矢印）も同様に染色

された。これらの部位は偏光下で黄緑～青緑色の二色性偏光を発し（図4b），電顕観察では直径10nm前後の枝分かれのない細線維（図5）が細胞間隙に大量に検出されたことなどからアミロイドを含むことが判明した。免疫染色では抗ヒトアミロイドAモノクローナル抗体（クローンmcl, KM-268），鶏IgG, IgMならびにオボアルブミンなどに対し陰性であったが，ビオチン化抗体と特異的に反応し，同部位にアビジンも含まれていることが示唆された。また壊死巣を含む病巣内には大腸菌，サルモネラ，抗酸菌などは検出されなかった。

診断及び考察：「鶏の脾臓（鞘動脈）における，巨細胞反応と壊死の著しいアミロイド沈着」とした。本例には基礎疾患としてサルモネラおよび大腸菌の混合感染による化膿性卵管炎が存在し，またアミロイド沈着の組織学的特徴から，ヒトのアミロイド症の分類による「反応性AAアミロイドーシス」に相当するものと思われた。病巣周囲の巨細胞は，アミロイド沈着部位の血流障害による組織壊死に対する反応と推察されたが，アビジンの沈着が鳥類のアミロイド症に特徴的であるか否かについてはさらに検討が必要と思われた。